

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新味舌体育館	階数	地上3F
建設地	大阪府摂津市正雀一丁目	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	210 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,500 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年1月21日
敷地面積	2,666 m ²	作成者	安川雅巳
建築面積	1,759 m ²	確認日	2020年1月22日
延床面積	2,867 m ²	確認者	土居貴史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.1</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>摂津や味舌地区のデザイン・キーワードとなる川の流れや鉄道をモチーフとして、水平ラインを用いたデザインとし、屋根高さ、庇の出幅等を必要最小限とすることで、近隣への圧迫感、日影の発生を抑えている。避難所利用を想定し、災害時のトイレ利用やライフラインを保持するための対策、衛生的な室内環境を確保するための工夫をし、停電時には自然換気や自然採光を利用できる配置や窓廻りの工夫を行っている。</p>	<p>その他</p> <p>特になし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>外部ルーバーを配置し西日からの日射遮蔽に配慮している。内装材には全面的に規制対象外、告示対象外の建材を採用し化学汚染物質に対して配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>更新必要間隔の長い内装材、配管材料を採用している。施設の耐震性を確保し、外壁や天井材等の落下防止対策を行い、安心・安全な防災拠点としての工夫を行っている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺の住宅地に配慮した計画とし、周辺の自然と調和した緑化空間を形成している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電を採用し省エネルギーに配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>再利用可能なユニット部材を採用し省資源に配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂の削減に努めるとともに、振動や光害への配慮を行っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0148

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)新味舌体育館						
	建設地	大阪府摂津市正雀一丁目						
	用途/区分	集会所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.6	3	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							